

森林関連情報の収集のためのインターネット利用

立 花 敏

2000年の世界食糧農業機関(FAO)森林資源調査によると、例えば、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、ネパール、フィリピン、スリランカでは1990年代も年率1%を超える森林減少となった(<http://www.fao.org/forestry/>)。森林保全の必要は少なくとも四半世紀にわたって叫ばれ、熱帯林消失への警告や危惧は先進国を中心としつつも、当該国でも様々な形でメディアにのるようになった。だが、東南アジア諸国の中には関連情報がある程度入手できる国もあるが、概観すると十分な情報を得られる状況には至っていない。印刷物にしる、インターネット情報にしる、量・質とも程度にはかなりの差異がある。

再生可能な森林資源を減らすことなく利用していかなければならない。そのためには情報の整備・共有が極めて重要な役割を果たささう。実状を専門家のみならず一般市民も理解することにより、それへ適切に対応していけるからである。

本稿では、アジア地域のいくつかの国の状況を取り上げながら、現状報告などの資料や統計データなどの有無に留意しつつ、森林情報に関わるインターネット事情を紹介することとしたい。

まず、東南アジア地域や極東ロシアなどの森林の態様や減少要因については、(財)地球・人間環境フォーラムの「森林と環境のページ」(<http://www2.odn.ne.jp/~aab27900/index.html>)から豊富な写真とともに詳しく知ることができる。

また、森林に関わる情報を辿っていくのには、国際機関や国際NGO・NPOのホームページなどを起点にするのが便利である。例えば、東南アジア地域の主な国の関連サイトへ世界資源研究所(World Resource Institute)の森林関連ホームペ

ージ(<http://www.wri.org/wri/ffi/internet/asia.htm>)のリンクを利用できる。ここに掲載されているのは、ミャンマー、インドネシア、日本、マレーシアなどである。ちょっと覗いてみよう。

ミャンマーではThe Free Burma Coalitionの英語のサイトへつながるが、その中に森林関連を取り上げた情報は見当たらない。また、このサイトから他へ張られているリンクは、同国の森林情報を得るのにほとんど有効となっていない。ミャンマーは、森林の持続的管理に向けた基準・指標づくりを進めてきているわけだが、インターネットを通じて情報を集めるのは難しい状況にある。

インドネシアでは、リンクされていてもサイトに辿り着けないが、インドネシア語によるホームページが多くなっている。そうした中で、林業省の<http://www2.bonet.co.id/dephut/dephut.htm>は有用である。ここでは、林業法の概要や地区ごとの関連統計、地図が掲載され、また統計データは3~5年前までアップデートされている。使用言語はインドネシア語が中心であるが、徐々に英語の箇所も付け加えられている印象を受ける。

日本では、独立行政法人森林総合研究所(<http://ss.ffpri.affrc.go.jp/>)や東京大学附属科学の森教育研究センター(<http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/>)などへリンクされている。特に前者は、森林関連情報のみならず、関連雑誌などの学術成果の検索もでき、関連サイトへのリンクも充実している。ちなみに、日本国内にある大学演習林の多くは日本語主体にホームページを開設しており、<http://pc3.nrs-unet.ocn.ne.jp/~zenen/link.html>から辿ることができる。大学演習林は、大

学における研究・教育の場として利用されるのみならず、近年は一般市民にもいっそう公開されている。森林の様子や手入れの仕方など写真を交えて解説しているサイトもある。

マレーシアでは、マレーシア木材協議会(Malaysia Timber Council)のホームページ(<http://www.mtc.com.my/forestry/forestry.html>)が英語で作られ充実している。連邦や州の行政、FAOなどの国際機関、自然保護団体などのNGO、森林関連企業など様々なサイトへとリンクされている。このホームページには、マレーシアの森林・林業統計が時系列で掲載されており、その推移や実状を知るのに大いに役立つ内容となっている。地域的な特徴を背景に、統計データが半島マレーシア、サバ州、サラワク州に分けて掲載されている点は特筆してよい。統計データの更新状況もよく、半年ほど前のデータを入手することもできる。マレーシアの森林や林業、木材貿易などの関連情報を入手するのに、このサイトは極めて重要と言える。また、マレーシアでは国際熱帯木材機関(ITTO)の基準・指標に沿った森林管理を行っており、森林や木材の認証に力を入れている。そのため、それらに関連する情報も盛りだくさんに掲載されている。

森林・木材認証制度は、持続的経営(適切な管理)のもとにある森林を一定の基準のもとで評価・認証し、そこから産出された木材の製品にラベリングするものである。十数年前に熱帯林材を持続的経営から産出されたものに限り貿易対象にしようという動きが、不買運動も伴って生じた。そうした中からこの制度が世界的に広がった。近年は、欧米を中心に認証を受ける森林が増えており、森林資源の持続性の観点からさらに注目度が高まっている。森林・木材認証は、国際NGOの森林管理協議会(FSC)によるものが最も広がっていると見てよい。FSCのホームページ(<http://www.fscoax.org/>)や森林認証をサポートするWWFのホームページ(<http://www.wwf.org.jp/>)には認証の仕組みや最新の認証森林の所在・面積などが詳しく書かれている。また環境に配慮した経営システムを主な対象として認証する国際

標準化機構(ISO)のホームページ(<http://www.iso.ch/>)も興味深い。これらのサイトは情報公開が進んでおり、種々の森林関連情報を得るのに大いに役立つ。ちなみに、FSCによる森林認証は2001年8月3日現在2436万3782haに達しており、アジアではインドネシアとスリランカに各3ヶ所、日本に2ヶ所、マレーシア、フィリピン、タイ、パプアニューギニアに各1ヶ所となっている。これらの中では、インドネシアが合計25万haほどで最も多く、他は数千～数万ヘクタールにとどまっている。なお、森林・木材認証に関しては、上記の他にカナダやアメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国などにおいて独自の認証システムができており、森林の多様性に基づき東南アジア独自のものを作る必要も言われている。

次に、国際NPOであるTrees for the Futureのホームページ(<http://www.treesftf.org/asia.htm>)をみてみよう。アジアについては、フィリピン、インドネシア、タイ、ヴェトナムの活動に関して300単語程度でレポートされている。アジアの記載内容は詳細とは言い難いが、全体を通じてNPO活動の一端を垣間見ることができる。また、ここからのリンクは世界中に張られており、世界の状況を知るのには有益である。だが、東南アジア地域へのリンクは十分とは言えない状況であり、この地域の十分な森林情報を得るのはなかなか容易ではない。

このように、東南アジア諸国の森林に関連するインターネット情報をみると、掲載される内容は概してまだまだ少ない。さらに、使用される言語に英語が一般化されているとは言い難い面もある。つまり、インターネットを利用して有用な関連情報を収集するのは現時点でも容易なことではなく、情報収集には多大の時間と費用を要することになる。よって、各サイトの充実およびリンクの拡充を図ることが重要であり、今後はインターネットと人的なつながりを活用して、我々も国境を越えてそれらに取り組んでいく必要がある。

(たちばな さとし・財団法人地球環境戦略研究機関森林保全プロジェクト)